

和

発行責任者：大阪市立総合医療センター
〒534-0021

大阪市都島区都島本通 2-13-22
地域医療推進委員会委員長 山根 孝久
<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる温かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

○ チーム医療の活動紹介

「転倒・転落防止対策チーム」

○ 専門外来「アレルギー外来」について

○ がんの診療について

「最新手術機器 手術支援ロボット『ダヴィンチ』
で行う胃がん手術」

○ 「大阪府北部地震における当院の対応」について

○ 市民医学講座のお知らせ

◆ チーム医療の活動紹介について 「転倒・転落防止対策チーム」

医療安全管理部

相原 玲子

齋藤 由美

「転倒・転落防止対策チーム」は、主として入院患者さんの転倒・転落事故を未然に防止するための対策を立て、その予防策の推進を図り、転倒・転落事例の検討を行い再発防止に努めています。

看護師・薬剤師・理学療法士による多職種チームで、中でも看護師は、精神看護専門看護師・精神科看護認定看護師・認知症看護認定看護師・排尿機能検査士・転倒予防指導士など多種多様な資格を持つメンバーで構成されています。それぞれの職種や資格の専門性を発揮し、毎月の会議では、活発な意見交換を行っています。そして、各病棟に転倒転落防止の係をおき、そのリーダーとして細やかな防止対策を浸透させるように努力しています。

新たな取り組みとして、9月から転倒・転落防止環境ラウンドを行うことを計画しています。慣れない入院環境の中に転倒しやすい所がないかメンバーでチェックし、問題箇所を改善していく予定です。また、入院のしおりに転倒転落予防のための「患者様・ご家族様へのお願い」と「転倒の危険性のチェックリスト」を挟み、患者様ご本人・ご家族にご協力いただいています。



転倒・転落防止対策チームメンバー

総合医療センターの入院患者さんの転倒転落発生率は減少傾向にあり、平成29年度の全国平均値2.72%に比べ当院は1.63%、転倒・転落による損傷発生率は全国平均0.07%、当院は0.023%といずれも低い値を示しています。今後もさらに患者さんの転倒・転落防止にチーム一丸となって活動していきたいと考えています。

(※全国平均値は日本病院会より)

案内リーフレットとチェックシート

患者さま・ご家族の皆様へ
★★★転倒・転落防止についてのお願い★★★

入院生活は、それまで住み慣れた環境とは異なり、生活環境の変化、病气やけが、体調の変化により**思いがけない転倒**ベッドなどからの転落事故が発生します

安全に歩行するために
履物は滑りにくい靴をご用意ください。

お子様は、ベッド柵を降ろしたまま、一瞬でも目を離すと**転落事故**が発生します。**ベッド柵は一番上まであげてください。**

体調の悪い時、ふらつきときなど、ナースコールで看護師を呼んで下さい

入院後、履き付けのシューズで無料放送をご確認ください
「転ぶはずはないと思っているあなたへ」
～入院中の転倒・転落を防ぐために患者さんに理解していただきたいこと～
小見の方へ「患者さんご家族の安全対策」

※ご不明な点がございましたら、医師・看護師にご相談ください。
大阪市立総合医療センター 医療安全管理部

ご自分の転倒の危険性をチェックしてみてください

転倒・転落防止対策チームより
65歳以上の方向
3人に1人が1年に1回以上転倒しています

該当するところに○を付けてつけてください

転倒セルフチェックシート

| 項目 | はい(点) | いいえ(点) |
|------------------------------|-------|--------|
| 1 過去1年に転んだことがありますか(転倒回数) | 1 | 0 |
| 2 つまづきことがありますか | 1 | 0 |
| 3 手すりにつかまらず、階段の上り下りができますか | 1 | 0 |
| 4 歩く速度が遅くなってきましたか | 1 | 0 |
| 5 横断歩道を青のうちに渡り切れますか | 0 | 1 |
| 6 1キロメートルぐらい続けて歩けますか | 0 | 1 |
| 7 片足で5秒くらい立ちいられますか | 0 | 1 |
| 8 杖を使っていますか | 1 | 0 |
| 9 タオルを圍く絞れますか | 0 | 1 |
| 10 めまい、ふらつきがありますか | 1 | 0 |
| 11 背中が丸くなってきましたか | 1 | 0 |
| 12 膝が痛みますか | 1 | 0 |
| 13 目が見えにくいですか | 1 | 0 |
| 14 耳が聞こえにくいですか | 1 | 0 |
| 15 もの忘れが気になりますか | 1 | 0 |
| 16 転ばないかと不安になりますか | 1 | 0 |
| 17 毎日お薬を正確に飲んでますか | 1 | 0 |
| 18 家の中で多くとき嘔吐感がありますか | 1 | 0 |
| 19 廊下、居間、玄関に滑りやすいものが置かれていますか | 1 | 0 |
| 20 家の中に段差がありますか | 1 | 0 |
| 21 階段をゆっくり歩けてはなりませんか | 1 | 0 |
| 22 生活上、家の近くの急な坂道を歩きますか | 1 | 0 |
| 合計 | | 点 |

合計点数が10点以上の方は転倒に特に注意が必要です

◆ 専門外来について 「アレルギー外来」

皮膚科部長 深井 和吉

当科では、今年の7月からアレルギー外来を開設しております。

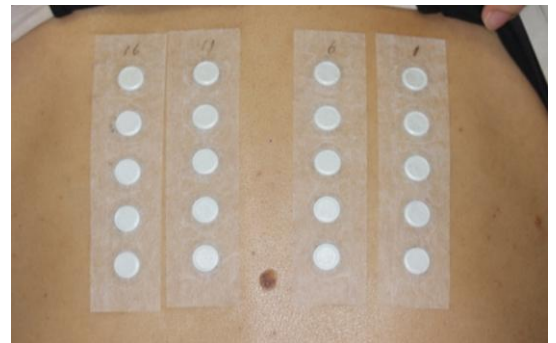
人には、細菌やウイルスなどの異物から身体を守る免疫機能が備わっています。しかし、その免疫機能が食べ物や花粉などを異物とみなして過剰に反応することを「アレルギー」といいます。過剰に反応した結果、接触皮膚炎（かぶれ）や蕁麻疹、アトピー性皮膚炎などの皮膚トラブルをおこす場合があります。

アレルギーの原因となる物質は、植物、金属、化粧品など日常に使用している商品、薬剤、職場で使う原料や薬品など様々なものがあげられます。

当外来では、接触皮膚炎（かぶれ）、薬剤アレルギー、食物アレルギーなどの原因を調べるために、パッチテストやブリックテスト、内服テストなどの検査を行っています。原因が明らかになれば、症状の再燃や悪化を防ぐことができます。

① パッチテスト・スクラッチパッチテスト

接触性皮膚炎（かぶれ）や薬剤アレルギー、金属アレルギーなどの原因を調べるための検査です。当科で常備している試薬を用いるか、疑いのある物（化粧品やヘアケア製品など）をご持参いただき検査を行います。原因と考えられるものを背中や腕に貼り、炎症反応の有無をみていきます。検査日（貼付日）、2日後、3日後、1週間後と通院が必要となります。また、テープを貼った場所は濡らせないため、汗をかく夏場は検査が難しい場合があります。



① パッチテスト・スクラッチパッチテスト

② ブリックテスト

薬剤アレルギーや食物アレルギーなどの原因を調べる検査です。専用の短い針（写真参照）で皮膚を刺して、疑いのある物をつけて15分後、30分後の皮膚の状態を反応します。



②ブリックテスト

③ 内服テスト

薬剤アレルギーなどで、他の検査と組み合わせて行う場合があります。入院の上、原因として疑いがある薬剤を微量から内服し、徐々に量を増やしていき、症状が再燃するか調べていく検査になります。あるいは、薬剤アレルギーのために「飲める薬剤がなくて困っている場合」、内服できる薬剤を決定することも可能性です。2泊3日で1薬剤を検査できます。

また、最近では慢性蕁麻疹に対してオマリズマブ皮下注やアトピー性皮膚炎に対してデュピルマブ皮下注という新薬が登場しました。オマリズマブは、難治性蕁麻疹で、今までの治療で効果不十分だった方が適応となります。非常に高い治療効果があります。デュピルマブは、成人アトピー性皮膚炎で、今までの治療で効果不十分だった中等症から重症の方が適応となります。アトピー性皮膚炎としては10年ぶりの新薬で注目されている治療法です。オマリズマブとデュピルマブは、いまのところ大規模病院でのみ受けられる治療法となっています。

| 午 前 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---------|---|---|---|---|---|
| 皮膚科初診 | ○ | ○ | ○ | - | ○ |
| アレルギー外来 | | ★ | | | |

大阪市立総合医療センター皮膚科は完全予約制です。当科の診察にはお近くの医療機関からの紹介状が必要となりますので、まずはかかりつけの医療機関でご相談ください。まずは、**皮膚科初診**の受診となります。

◆ **がんの診療について**

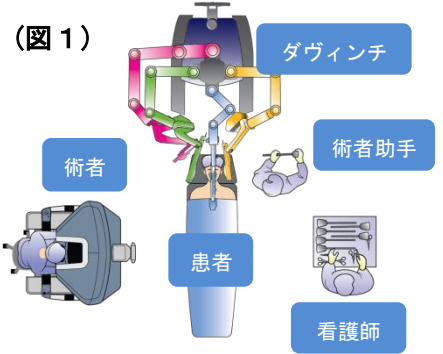
「最新手術機器 手術支援ロボット『ダヴィンチ』で行う胃がん手術」

消化器外科副部長 久保 尚士

本邦での胃がんの年間死亡数は肺がん、大腸がんに次いで3位です。遠隔転移を認める胃がんは、抗がん剤による治療、リンパ節転移のない早期がんは内視鏡治療、それ以外の進行度の胃がんは外科手術で治療します。従来は開腹手術が行われていましたが、近年、腹部に約1cm程度の穴を数か所あけて行う腹腔鏡手術が普及してきており、当院でも、約7割の患者さんに腹腔鏡手術を施行しています。腹腔鏡手術の利点は、手術創が小さいことによる術後の痛みの軽減、美容上の美しさ、より早い術後回復、より短い入院期間、などが挙げられます。腹腔鏡手術は、内視鏡手術用の細長い手術器具を穴から挿入し、テレビモニターを見ながら手術操作を行います。ときに高度な技術が必要になることがあり、癌の根治性低下や術後合併症の増加などが報告されています。

手術支援ロボット『ダヴィンチ』とは

腹腔鏡手術の中でも、手術支援ロボット「da Vinci Si Surgical System」による、いわゆるダヴィンチ手術は、従来の腹腔鏡下手術にロボットの機能を組み合わせて発展させた進化版といえます。医師が患者さんに触れることなく手術支援ロボット『ダヴィンチ』を遠隔操作し手術を行います(図1)。患者さんの身体に小さな穴を数か所開け、ダヴィンチの4本の腕に接続されたカメラや手術器具を体内に挿入し、各器具が外科医の手の動きを忠実に再現することで手術を進行します。



患者に接続されるダヴィンチ



術者が見ているカメラ映像

(図2)

医師は、その中の1本に接続されたカメラを通して体内の画像を見ながら、手足を使ってダヴィンチを操作します。ダヴィンチ手術に用いられる内視鏡は、ハイビジョンカメラで遠近感のある3D画像により、体内の臓器などを浮き上がらせ鮮明に視認することができます。また、高解像度で約10倍に拡大できます。

外科医の手の役割をするその他の3本のロボットアームは、人間の手以上の可動域をもち、従来の手術では不可能であった複雑な動きが可能です。手振れ防止機能が備わっており、非常に細かな作業を正確に操作ができる特徴もっています。(図2)そのため、腹腔鏡手術より安全・確実に合併症の少ない手術が行えるようになりました。また手術の創部も小さいことから、術後の痛みも軽減し整容性も良好です。(図3)



ダヴィンチ術後

開腹手術術後

(図3)

当院では、2017年1月から、ロボット支援手術を開始しました。2018年7月までに**30人**の患者さんに同手術を施行し、**平均手術時出血量25ml**と、ほとんど出血しない手術が可能となり、すべての患者さんにおいて大きな合併症を認めず、**術後平均11日間**で退院されています。また、今春より胃がんに加えて、食道がん、直腸がんにも健康保険の適応がひろがりました。当院でも今後開始する予定となっています。現在、消化器外科、泌尿器科、婦人科の3科で、ダヴィンチを使用した最新手術を行っています。

●消化器外科の受診には、紹介状が必要です。まずは、かかりつけの医療機関にご相談下さい。

| 消化器外科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----------|---|---|---|---|---|
| 上部(胃・食道) | ○ | ○ | | | ○ |
| 下部(大腸) | | ○ | ○ | ○ | |

当センターが取り扱うがんの種類

肺がん・縦隔腫瘍/乳がん/胃がん/大腸がん/食道がん/肝がん/胆嚢がん・胆管がん/膵がん/前立腺がん/膀胱がん/腎がん/尿路がん/精巣がん/血液腫瘍(白血病、リンパ腫など)/子宮がん/卵巣がん/脳腫瘍/骨軟部腫瘍/頭頸部がん/小児がん/皮膚がん/原発不明がん/性腺外胚細胞腫瘍/眼腫瘍/口腔がん

◆ 大阪府北部地震における当院の対応

平成30年6月18日7時58分、大阪府北部地震が発生し、当センターの位置する都島区でも震度5強という強い揺れを感じました。

これまで、当センターは災害時に業務をスムーズに遂行できるよう訓練を重ね、事前計画を策定してきました。その訓練の成果もあり、当日は混乱することなく対応出来ました。

まず、地震直後に院内災害対策本部を立ち上げ、院内の全ての部署・病棟に被害の状況を報告するように指示を流しました。また、院外にいる出勤途中、あるいは非番の職員に向け無事であるかを確認する一斉メールの発信が行われました。

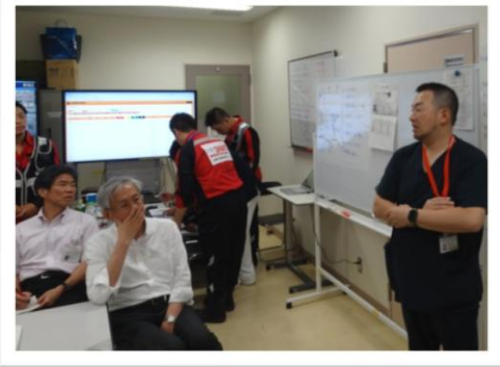
災害対策本部に「院内職員・入院患者のケガの発生はなかった。」「エレベーターが全機停止し職員が閉じ込められた。」「建物、電気、上下水、院内LAN、院内PHSにダメージはなかった。」「大阪市内の交通網が麻痺し出勤困難な職員がいる。」など様々な情報が集約されました。

最も重大なダメージは、エレベーターが全機停止したことでしたが、事前計画通り復旧業務がスタートしました。また、業務の継続・中止について会議を行い、「入院患者を安全に搬送できないため予定されていた手術を中止する。」ことを決定。地震発生から1時間30分後に1台目のエレベーターが稼働しましたが、限られた輸送手段のなか、どの業務を最優先にするかも検討しました。地震発生から5時間後、エレベーターは全機復旧し、全業務を再開することができました。

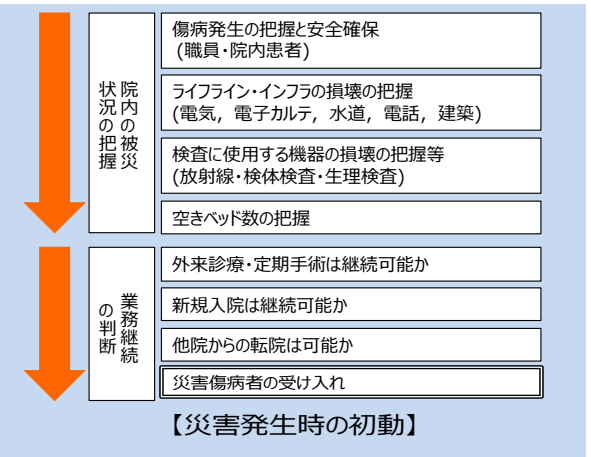
また、災害拠点病院として、大阪市北圏域内の医療機関において、支援が必要かどうかについて電話調査を行いました。幸い、当院を含め圏域内の病院は被害が少なく済みましたが、被害の大きかった豊能地域の病院からは、入院患者の受け入れを行いました。

今回の地震あるいは院内大規模災害訓練を通じて病院機能をさらに強化し、市民に安全かつ継続的な医療を提供できるように努めてまいります。

災害対策委員会 福家 顕宏



災害対策本部の様子



市民医学講座のお知らせ

開催場所：大阪市立総合医療センターさくらホール ※申込不要/入場無料

9月8日(土)
14時～16時(開場:13時30分)
知っ得! なっ得! 医学情報
耳鼻咽喉科から、味と匂いのよもやま話と、難聴・めまいについて
皮膚科から、かゆみ治療最前線と、皮膚がんについてのお話です。

9月9日(日)
13時～15時15分(開場12時30分)
こどものひきつけ2018 -けいれんの救急対応-
内容: てんかんについての講演と体験談

11月7日(水)
13時～16時(開場12時30分)
市民公開糖尿病セミナー **ためしたカッテン2018**
糖尿病と認知症 ～あまくない関係～
6講演と体験ブースをご用意してお待ちしております!

11月16日(金) 13:30～16:00
第3回慢性閉塞性肺疾患(COPD)認知度向上作戦
『あなたの肺は健康ですか?』
講演と体験コーナーを用意してお待ちしております!

大阪市立総合医療センター 大阪市立大学医学部研究科
合同市民医学講座
11月17日(土) 14時～16時30分
人生百寿時代を迎えて
-これから元気に暮らすために知っておきたい医学情報-

11月26日(月) 13:00～16:00(開場12:45)
らくらく介護フェア in みやこじま
テーマ「老後の備え」
講演と体験ブースを
ご用意してお待ちしております!